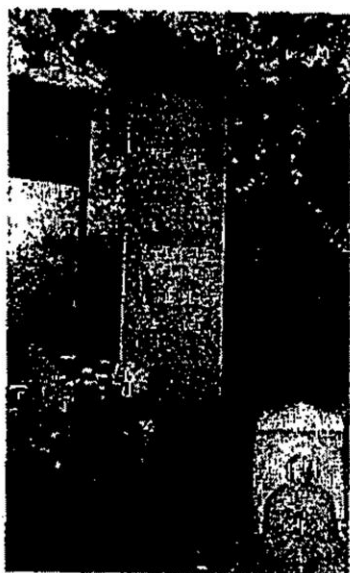
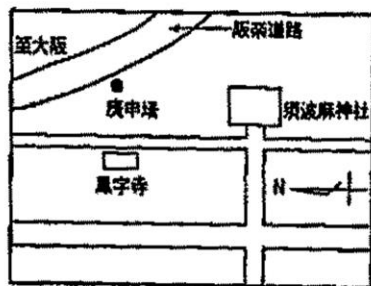


時の流れの生き証人



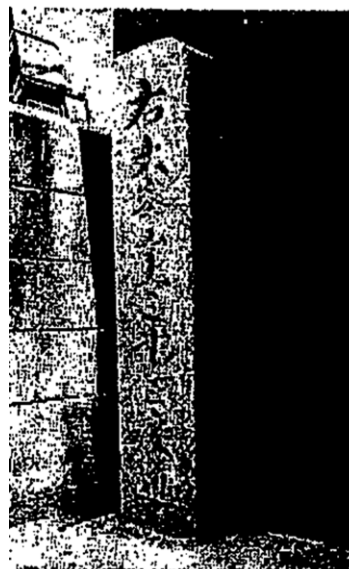
庚申塔
中垣内二丁目

江戸時代の庶民は、商売の繁盛、病気がなかることなどを願っていろいろなる。その一つに中垣か（さんし）とよばれる三匹の虫が、体内から抜け出し神に罪過を報告すると人千支（えと）で続めばは命を預かれると信じてい



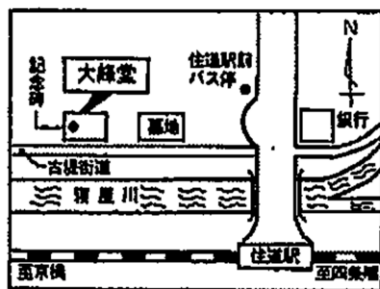
た。そこで地域の人々は遣ばたに庚申塚や庚申塔を建て、その夜は眠らずに酒宴を開いて長寿を願った。中垣内二丁目の鳳字寺東北の木々に囲まれた一角に府下でも数少ない庚申塔が人目にふれることなくひっそりと建っている。現在では、時の流れとともに庚申塔はほとんどなくなり庚申塔だけが当時の庶民の様子を残している。

時の流れの生き証人



大峰山参拝三十三度記念碑
赤井一丁目

江戸時代以降に、峰山へ入り修験者として行場（信仰のためのお参りや）で苦しい修行を行った。寄付のための団体をつくり山岳仏教信仰のため登山する庶民が増える。河内地方の庶民は奈良県吉野山から和歌山県の熊野に長くのびる山系の大



かして明治十八年に建てた。この堂は、今は昔の面影がすっかりなくなってしまった住道駅前付近の古堤街道沿いにあり、堂内の西側にひっそりと人目にふれることなく建っている。記念碑は、道標の役目も果たしており「ひらおかいこま宝山寺こほり山ならいがいせ」など行き先を数多く記している珍しい道標である。